

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	浅野 保子様 事務所付共同住宅新		階数	地上5階
建設地	愛知県岩倉市大地町西町畑19-1		構造	RC造
用途地域	準防火地域・住居地域・近商地域		平均居住人員	115 人
気候区分	6地域		年間使用時間	5,760 時間/年
建物用途	事務所集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月	予定	評価の実施日	2018年8月4日
敷地面積	2,998 m ²		作成者	大東建託小牧支店 野澤 健
建築面積	552 m ²		確認日	2018年8月4日
延床面積	2,202 m ²		確認者	大東建託小牧支店 野澤 健



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 71%
 ③上記+②以外の 71%
 ④上記+ 71%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.1

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 5.6 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

②資源の有効活用

2.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		重み係数	全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル		2.9	0.15	3.0	0.48	3.0	1.00	-	2.6		
1.2 遮音		3.0	0.48	3.0	0.48	3.0	0.50	-	3.0		
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.93	3.0	0.07	3.0	0.30	-	3.0		
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.07	3.0	-	3.0	0.30	-	3.0		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	3.0	0.20	-	3.0		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	3.0	0.20	-	3.0		
1.3 吸音		1.0	0.04	3.0	-	3.0	-	-	1.0		
2 温熱環境											
2.1 室温制御		2.6	0.35	3.0	0.50	2.6	2.6	1.00	2.6		
2.1.1 室温		3.0	0.58	3.0	0.30	3.0	0.63	-	3.0		
2.1.2 外皮性能		3.0	0.35	3.0	0.07	3.0	0.38	-	3.0		
2.1.3 ソーン別制御性		3.0	0.07	3.0	-	3.0	-	-	3.0		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.30	1.0	0.20	-	1.0		
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	3.0	0.30	-	3.0		
3 光・視環境											
3.1 昼光利用		2.7	0.25	3.0	0.30	3.3	3.3	1.00	3.1		
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.30	3.0	0.30	-	3.0		
3.1.2 方位別開口		3.0	-	3.0	-	3.0	0.30	-	3.0		
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	3.0	0.20	-	3.0		
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30	3.0		
3.2.1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	4.0	1.00	-	3.0		
3.3 照度		1.0	0.15	3.0	0.15	3.0	0.15	-	1.0		
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	3.0	0.25	-	3.0		
4 空気質環境											
4.1 発生源対策		3.5	0.25	4.0	0.58	3.3	3.3	1.00	3.4		
4.1.1 化学汚染物質		4.0	1.00	4.0	1.00	4.0	0.63	-	4.0		
4.2 換気		3.0	0.38	3.0	0.38	2.3	2.3	0.38	3.0		
4.2.1 換気量		3.0	0.47	3.0	0.47	3.0	0.33	-	3.0		
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.06	3.0	0.06	3.0	0.33	-	3.0		
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.47	3.0	0.47	1.0	0.33	-	3.0		
4.3 運用管理		2.0	0.04	3.0	0.04	3.0	-	-	2.0		
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	-	-	3.0		
4.3.2 喫煙の制御		1.0	0.50	3.0	0.50	3.0	-	-	1.0		
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ		2.9	0.40	3.0	0.40	3.0	3.0	1.00	2.9		
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.06	3.0	0.06	3.0	0.60	-	3.0		
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.06	3.0	0.06	3.0	1.00	-	3.0		
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.88	3.0	0.88	3.0	-	-	3.0		
1.2 心理性・快適性		2.9	0.30	3.0	0.30	3.0	0.40	-	2.9		
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	0.06	3.0	0.06	3.0	0.50	-	3.0		
1.2.2 リフレッシュスペース		2.0	0.06	3.0	0.06	3.0	-	-	2.0		
1.2.3 内装計画		3.0	0.88	3.0	0.88	3.0	0.50	-	3.0		
1.3 維持管理		3.0	0.30	3.0	0.30	3.0	-	-	3.0		
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	-	-	3.0		
1.3.2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	3.0	0.50	3.0	-	-	3.0		
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.2	0.31	3.0	0.31	3.0	-	-	3.2		
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	3.0	0.80	3.0	-	-	3.0		
2.1.2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	3.0		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.33	3.0	0.33	3.0	-	-	3.9		
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	3.0	0.23	3.0	-	-	3.0		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	5.0	0.23	5.0	0.23	3.0	-	-	5.0		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	3.0	0.09	3.0	-	-	3.0		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	3.0	0.08	3.0	-	-	3.0		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	3.0	0.15	3.0	-	-	3.0		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		5.0	0.23	5.0	0.23	3.0	-	-	5.0		
2.4 信頼性		2.6	0.19	3.0	0.19	3.0	-	-	2.6		
2.4.1 空調・換気設備		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	3.0		
2.4.2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	2.0		
2.4.3 電気設備		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	3.0		
2.4.4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	3.0		
2.4.5 通信・情報設備		2.0	0.20	3.0	0.20	3.0	-	-	2.0		

独自

②

②

庇・カーテンにより昼光制御をしています。

F☆☆☆☆を採用しています。

外壁仕上げ材はタイル張り=耐用年数40年です。

更新必要間隔の長い配管を使用しています。

3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				3.0	0.06	3.0	3.0	0.50	
1 階高のゆとり				3.0	0.60		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.06		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.88			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			事務所BEI=0.72	3.3	0.33			-	3.3
2 自然エネルギー利用				3.0	0.17			-	3.0
3 設備システムの高効率化			住宅:BEI=0.91 事務所BEI=0.64	4.1	0.33			-	4.1
4 効率的運用				3.0	0.17			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.19			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				3.0	0.81			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.8
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			主要水栓に節水コマを設けています。	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.94			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.06			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽鉄+仕上材のデテールを採用しています。	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			-	
3 冷媒				-	-			-	
LR3 敷地外環境					0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等以上の数値です。	4.1	0.33			-	4.1
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	交通負荷を抑制するための取組が十分にされています。	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	
2 振動		独自		3.0	0.50			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40			-	
1 風害の抑制				1.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

浅野 保子様 事務所付共同住宅新築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:5.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 浅野 保子様 事務所付共

計画上の配慮事項	
総合	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の面で、性能に優れた建物となっています。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。
Q2 サービス性能	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	可能な限り断熱補強を施すことで、熱負荷抑制へ配慮しています。
LR2 資源・マテリアル	特になし
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等以上の数値です。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。